

# 第1部

## ① わたしたちの人権

### (1)ねらい

- 人権の概念や権利と責任の関係、自分自身が権利の主体であることを、身近な生活や国内外の諸資料から理解する。

### (2)留意点

- 人権とは、人が何らかの責任や義務を果たす代償として認められるといった性質のものではなく、自分にさまざまな人権があると同時に、他者にも同じ人権があり、尊重し合うことが大切であることを確認する。
- 世界人権宣言については、原文や他の訳文なども教材として用いることで、意味や解釈への理解を深めることができる。

### (3)展開や活用の例

- 日々の生活をふり返らせ、その中の行動を挙げさせた後、世界人権宣言や子どもの権利条約、日本国憲法の条文と照らし合わせる活動によって、人権を身近に捉えさせることが期待できる。
- 最後の問について、生徒に事例を挙げさせ、様々な権利に伴う責任について考えさせる活動によって、自分自身が権利の主体であるという自覚と、他者の人権を尊重する責任についての理解の深まりが期待できる。

## ② 命と向き合う

### (1)ねらい

- 大切な人を失った人の体験から、命の有限性や自他の命のかけがえのなさに気づき、自他の命を尊重する態度を身につける。
- 今の自分の命は、過去から現在へと世代を超えて受け継がれてきたことを認識し、他者の命や思いのつながりの中で、未来に向けて自分の生き方について考える。

### (2)留意点

- 生徒の中には家族など身近な人を亡くした体験をもつ者もいると考えられ、指導に際しては事前事後に個別に話を聞く時間を設定するなどの配慮が必要である。
- 自分の命や存在そのものを価値あるものと気づかせるうえで、自尊感情を高める取組も併せて行うことが望ましい。

### (3)活用例

- 身近な家族を失った後の順さんの言葉や行動から心情について考えさせ、命の有限性やかけがえのなさに気づかせる。
- 順さんが母の死に向き合えるようになった理由について考えさせ、他者の生き方や思いが、未来に向けての自分の生き方につながっていることに気づかせる。
- ページ下部の問に取り組ませることで、自分自身の命や生き方、命のつながりについて考えさせる。

## ③ 自分で決める、自分の生活

### (1)ねらい

- 多様な価値観や個性、生き方、考え方を尊重することは、多様な人々が共生するうえで大切なこと

であり、人としての尊厳を尊重するということであることを理解する。

- 相手の立場や心情を想像して自分がどうしたらよいかを考えるとともに、その人を「決める主体」として尊重し、コミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

## (2)留意点

- 介助を受ける美和さんと藤岡さんのように、「介助を受ける・介助をする」関係であっても、人として対等の立場である点を確認し、「その人にとって、何が一番いいか」ということについては、コミュニケーションの中で本人の意思を確認したり尊重したりすることが大切であることに留意する。
- 善意からの行動が相手を傷つけたり、不快にさせたりしてしまうことがあるからといって、社会的に弱い立場の人々へのかかわりが消極的にならないように留意する。

## (3)活用例

- 「あのね藤岡さん。」から始まる美和さんの言葉や、「え?でも…」という藤岡さんの言葉から、「決める主体」や社会的に弱い立場の周囲にいる人の陥りやすい思い込みについて気づかせる。
- 自分の体験や周囲の出来事について、意思や気持ちを軽視されたり、勝手に決められたりした経験がないかをふり返り、その時の自分自身の心情から、他者に対してどのような言葉がけや接し方が必要かを考える。
- 事例から、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)や、社会的に弱い立場(女性、子ども、障害者、高齢者など)の人権課題と関連づけて学習を展開することも考えられる。

## ④ 自分を見つめる

### (1)ねらい

- ダイヤモンドランキングの活動により、自己の価値観を見つめ再認識するとともに、ランキングの共有により他者にもそれぞれの価値観や考え方があることに気づき、多様性を尊重する態度を身につける。
- リフレーミングの活動により、自分自身への多様な見方や、長所や短所も含めて自分自身を価値ある存在として肯定的に認める態度を身につけるとともに、他者の個性に対する多様な見方や、多様な個性を受容する態度を身につける。

### (2)留意点

- ダイヤモンドランキングの際には、ランキングを完成させるだけでなく、順位付けの理由についても考えさせることで、自分の個性についての考え方を深めさせることができる。また、班活動などで共有する際にも、完成したランキングだけでなく、理由も説明することによって、他者の価値観や考え方などに対して理解を深めさせることができる。
- リフレーミングの際には、自他を受容することが目的なので、「他者を否定しない」ことを徹底し、特に、短所について、笑ったりからかったりしないように指導する。

### (3)活用例

- ダイヤモンドランキングは選択肢を変えて、個別的な人権課題の導入として活用することもできる。また、「好きなファッション」、「人を好きになったり尊敬したりする気持ち」の選択肢については、服装や好意の対象は性別にかかわらず多様であるということから、性的マイノリティの学習の導入にも活用できる。
- リフレーミングにより、自他の個性を肯定的に受け止める態度を身につけさせることで、いじめや差別のない集団づくりに活用することもできる。

## ⑤ 伝え方いろいろ

### (1)ねらい

- 多様な人々が共生する中で必要となる、権利や意思の適切な自己表現や、他者の人権を尊重するために共感的に聞き、対応することの大切さを理解するとともに、その具体的なコミュニケーションの技能を身につける。

### (2)留意点

- 「1. アサーション」について、パターン1・2のどちらがお互いを尊重したコミュニケーションであるか判断するだけでなく、その理由についても考えさせることが大切である。
- 「2. 受け止める」については、正解を見つけることよりも、自分が相談者の立場だったらという視点から、勇気をもって相手を信頼してカミングアウトした人が、安心・信頼できる言葉とはどのようなものかを考えさせるという点に留意する。
- 「3. 声を上げる勇気」について、掲載事例の他、時事的なものを取りあげることで、生徒が学校での人権教育と社会での人権の動きとを関連づける意識や視点を身につけることが期待できる。

### (3)活用例

- 「1. アサーション」については、考える際に読んだり考えたりするだけでなく、ロールプレイを取り入れることによって、他者の立場に立って考えたり感じたりすることを体験的に学ぶことができる。また、掲載しているもの以外の事例(異なる場面や女性(DV)以外の場面等)を教師が準備し、生徒に考えさせることにより、コミュニケーションの技能を高めることが期待できる。
- 「2. 受け止める」については、友人の言葉(ア)～(ク)について、より良い対応や言葉がけについて個人で考えるほか、班などで他者と協議することでより考えが深まることが期待される。また、「実は私、[ ]やねん」に具体的な文言を入れてロールプレイを取り入れることで、より具体的に考えることができる。
- 「3. 声を上げる勇気」については、時事的な事例を取りあげることで、個別的な人権課題の導入として用いることができる。

## ⑥ 「平等」と「公平」は違うの？

### (1)ねらい

- 身の周りや社会にある事例について、公正・公平の視点から判断し、協議する活動により、平等や公平についての感覚や認識を深めるとともに、より良い社会を実現するためにそれらを尊重する態度を身につける。

### (2)留意点

- 公平・不公平についての判断だけでなく、理由を考えさせることが大切であり、理由や判断に迷った点などについても他者と共有・協議すると、理解の深まりが期待できる。
- 各事例の公平・不公平についての正解について結論を出すことが目的ではなく、平等や公平の視点から考えを深める機会である点に留意する。
- ①～④の事例の他、これまでの差別による格差を是正するための特別措置の例として、女性の活躍推進のためのポジティブアクションや同和対策事業、アイヌ民族を対象としたウタリ対策事業などがある。

### (3)活用例

- 各事例について、個人で公平・不公平について理由もあわせて考え、班で共有・協議した後、各班の意見を発表し協議する。時間配分や主に扱う人権課題などから、①～④のいずれかを選択して取り扱ったり、班ごとに事例を割り振ったりすることも考えられる。

- 事例に挙がっている、女性や高齢者、障害のある人などの個別的な人権課題の学習として展開することもできる。

## ⑦ ダイバーシティ&インクルージョン

### (1)ねらい

- 共生社会では、多様性の尊重にとどまらず、多様性を包摂し、生かしていくことが大切であるということを理解する。
- 多様性の尊重や多様な人々が共生する妨げとなる、社会や自分にある先入観や思い込み、決めつけなどの偏見に気づくとともに、それに起因する差別などの否定的な言動を予防、改善しようという態度を身につける。

### (2)留意点

- 自分の印象を絶対視せずアンコンシャス・バイアスの解消に努めるとともに、アンコンシャス・バイアスが差別や否定的な言動につながらないようにすることが重要であるということに留意する。
- 女性の活躍推進や豊富な知識と経験をもつ高齢者の活躍、合理的配慮、外国人労働者、性別にとらわれない働き方、多様な働き方、働き方改革などに関連して、個別的な人権課題について考える際の視点としても活用できる。

### (3)活用例

- 表の項目ア〜クについて個人で考えた後、ペアや班などでいずれかにチェックを入れた理由も含めて共有し、多様な考え方があることに気づかせる。
- 社会での「ダイバーシティ&インクルージョン」の取組を調べる活動により、「ダイバーシティ&インクルージョン」の具体的なイメージをつかみ、社会とのつながりを意識させる。

## ⑧ 本当に関係ない！？

### (1)ねらい

- いじめを自分の問題として捉え、身近な人々の人権を尊重し、主体的に豊かな人間関係を築こうとする態度を身につける。
- いじめを防ぐために、一人ひとりが「いじめは絶対に許さない」という態度を示し、互いの違いを認め合える人間関係が大切であるということを理解する。

### (2)留意点

- 「自分ならどうするか」という視点から考えることで、自分事として関心をもち、問題解決のために自分のできることを考え、行動することが大切である点に気づかせる。

### (3)活用例

- 教材の文章の篤史の心情や行動について、「自分ならどうか」という視点で考えさせる。
- 考えてみようの選択肢(ア)～(エ)やいじめの四層構造を参考にしながら、同じような場合に、どのような行動ができるか考える。
- 出典『いじめを許さない人権教育教材(高校生用)』の活用の手引き→



## ⑨ 気づきから実践へ

### (1)ねらい

- 人権尊重の社会づくりに向けて、社会の一員としての自覚と積極的に社会参加する意欲や態度を身につける。

### (2)留意点

- 地域や社会での人権課題に対して、ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の様々な場面において、生徒が自主的に目標や計画を作成して取り組めるよう支援する。
- 事前準備だけでなく、成果や工夫したこと、苦労したことなど、事後のふり返りが重要である。
- 地域や関係機関、NPO 等との連携により、活動の充実が期待できる。
- SDGsから実践を考える際には、人権の視点について留意する。

### (3)活用例

- 「高校生の活動あれこれ」の事例について、取組と、その背景となっている出来事や人権課題について考えさせる。
- 身近な地域や人に関すること、報道などで取り上げられていることを持ち寄り、班やクラスでのテーマや課題を設定し、どのような活動に取り組むかを考えさせる。